（三十日夕刊）

磐城新聞

休刊 大祭第一第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（二行五十錢指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

世界地圖より見た 小名濱商港に就て

在小名濱 水野忠護

幾多先輩諸氏の涙ぐましき努力により遂に東國の一漁港は一躍して關東の良港否全日本の堂々たる商港となるを得た。そして榮えあるその起工式は奇しくも天候に惠まれた去る二十二日を以て盛大に擧げられた。最早當港として殘る問題は如何にしてこの幸ある港を利用すべきか、如何にして第二の横濱たらしむべきか如何にして第二の神戸たらしむべきかといふ事にあるのである。そしてそれは學理上必して不可能な事ではないのである。こゝに於てか愛町の士、愛鄕の徒、豈くんぞ奮起精勵、依つて以て偉大なる未來を有する本町の發達を思わざるべけんやである。もしも思はない者があるとすればそは徒らに尊き天壽を醉生し以て人生を汚さんとする凡輩に非ざれば狂兒のみ豚子のみ、共に談ずるに足らずである。脫線!!脫線!!さていよいよ本論に入るが前述、本町が學理上第二の神戸、横濱となり得るといふ明細なる說明如何。それは次の如くである。

僕は先日餘暇を以て世界の地勢と文明の推移なる題目の論說中で今述べようとする說明の暗示を得たのである。僕の淺薄なる地理學に對する研究の所產であるこの說が絕對に正しいとは言はない。而し一應の信を留いて以て讀まれたならば僕は多幸である。

それ小名濱は福島の東岸、詳しく言へば東經三十七度一分、北緯百四十度九分に位する。即ち日本太平洋岸にある三十一の商港中、米國日本、西北利亞を連結する最短距離の交通線上にあるのである。故に米國よりの貨物も又內地近縣の物貨を

直ち に平小鐵道、磐越線を經て新潟に至り新潟より浦鹽を經て亞細亞大陸方面（含歐羅巴）に向ひ、歐羅巴、亞細亞兩大陸よりの物貨を今の逆コースによつて當港に當港より更に內地近縣又は遠く北米諸國に移出入し、輸出入しやうといふ計劃は安全、迅速をモットーとする運輸事務に於ては是が非でも實行せらるべき計劃でなければならぬ。僕は必ずやこの交通系統が小名濱商港落成と共に實施されるであらう事を從つて必然的に四百萬やそこらの端た金で出來上つた第一期工事に不足を告じ少くとも更に五百萬圓位の豫算を以て第二期修築工事を起工するの必要に迫られるであらう事をこゝに先言しておこう。かく言ふ時讀者諸君の內には西比利亞と日本と米國を結んでどうするんだい。あの荒涼たる大西比利亞の原野と共產黨の政策の爲に四分五裂になつてゐるソビエット聯邦を相手に何の貿易ぞ、そんな話は本當のはなし（藥無し）さ、なんて相手にせぬ人も無くもあるまいと思う。よつて一言この事について述べておこう。成程、現今のロシア聯邦は謎の國であるに相違ない、然し有名なる露國硏究の巨星、牧野代議士の言によれば

露國 は近年著々として共產政策の放棄を實行し、比較的穩健なる政策を探りつゝあり、特に商工業經濟の方面に於ては殆んど歐洲列國のそれと違はざる程度の穩健なる政策の實行に著手した從つて近年の同國の產業の恢復は異常なものである。その偉大なる自然の富源を有する同國の十年後の活躍こそ寧ろ全世界驚異となるであらうと述べてゐる。この牧野氏の言を聞く者、そして眞に理解力に富めるものならば又少くとも、最近世界の地理學に興味を持つ人ならば今僕の述べた事を何人も首肯する事と思う。

賀にあの大ロシア再生の曉は當商港完成の時こそは、時の利と地の利によりそれに本町有志家諸氏の熱心とによつてアメリカ、日本、ロシア（歐羅巴をも意味す）を通する交通路は必ずやこの小名濱商港を中心地とし桑港、モスクワを起點終點として開かれ、こゝに小名濱市の一大膨脹時代（即ち東日本の膨脹時代—この事は關西地方の膨脹時代、並びにその現今の經營時代と比較しても理論的に述べ得らるゝが述に前述の數言があり、言葉こそ異なし

根本 は同じ事故略す）が出現する日の到來するのは實に明らかな事である廢虛の老小名濱に明らかなる光は輝けり退嬰的なる者は遂に自滅する今や我々は地の利と時の利を得たり一萬の親愛なる小名濱町民諸氏、進まなん、舊幕時代に榮わたりし、否、否、それに百倍する大小名濱の建設に鷄鳴曉を呼げたり。光は東より。

明日の吉凶　舊曆四月二三日　新曆五月卅一日

▲一白 刻々に勢ひ付きて來る日入學名弘め等尤も吉▲二黑 跡から跡からと福の舞ひ來る日開店尤も吉▲三碧 意の如くならざる日行き違ひなき樣注意すべし▲四綠 威氣高ぶりて蹉跌を招き易し和合第一の日▲五黃 自然と活氣付き來り默はず彼岸に達する日▲六白 小利に齷齪せず永遠の大計を立つるによき日▲七赤 自負心を生ずるときは德望事業共に失墜す▲八白 順氣發展し行く日婚約企業開店いづれも大吉▲九紫 活動力の減退し易き日持久

心を養成すべし

講談 [illegible]

(244) 渡邊默禪作 宮野歌春畫

「良人、見覺があんなさるでせう此のお方が私の阿母さんですよ」

とお雪に言はれて

「ねッた萬、これがお萬のアノお前を苛めた繼母の」

かぢ原は驚いて顏を見る

「面白次第もございません天罰を受けて此樣淺猿しい姿になりました」

とお萬は土に額を摺附けてゐたが

「モジ富さん、お雪の良人の梅さんが來なすつた、モシ起きて共々にお詫びをしてください、コレ富さん」

ゞと倒れた富松の側へよつてゆすぶつたが忽ちぎよつとなつて

「おれッ」と叫ぶ

「おや富松が……それでは今の奴にッ」

とお雪も驚いてきたない骸を抱き起す、その隙を覗ひた萬は賊の手から刀をむしり取つてくる〱と手拭を卷くより早く我と吾が喉へぐさと刺した。きやッといふ聲にびつくりして夫婦が引き起した時はべに甕を破つたやうに鮮血がほとばしてゐた。

お萬の自殺は不義から馴染めた男とは云へ假にも良人として苦惱をともにして來た富松に死なれて遂に望を失なつたのと十分に動いていた悔悟の情が此の刹那で一層強くなつたのと梶原に殺人の面倒を負はせず自分が賊を斬倒したやうに總ひたいのと都合三つの原因があつた、梶原の一及に成敗された賊は豫て藤屋の賊產を横領しやうと計劃んだ時ひそかに味方につけた大阪の木村逸齋事、本名青柳正太夫といふ賣卜者である富松は彼が人品堂々と押しがよく小學問もあり書道も巧に殊に辯舌が達者なるを見込み贋筆の証文を書かせゝやら金貨に化けさせるやして散々藤屋を苦しめた其後自分等の奸策露顯藤屋を逐出されてから爲す事なく暮してゐると追々と手詰つて來る、富松は猛惡な梅毒に惱まされる遂に片輪車に鬼の如く姿を晒す袖乞にまでおちぶれて東京に居られず東海道を徘徊の末靜岡の町へ這入つはのが不思議の因緣にひかれて二人とも命を落すいとぐちであつた。

正太夫はその前から二人の弱い尻につけこんでは絕わずせびり立てゝ酒代にしてゐたが今は絞るべき血もなくなつてゐたのでがらりと方針を變へて色香の殘るを餌食にしやうとかかつた、其の內己れも東京を食ひ詰めたので二人の跡を追ひ靜岡についてからも附け廻しつゝお萬を口說いてゐたのであつた。哀れな最後を見ては梶原夫婦もそゞろにむねが潰れた。其の夜の中に土地の村名主へ屆けて出て檢使や何かの手續きを濟ましてから萬と富松の遺骸を斂めて手厚く埋葬の上二人に與へやうとした百兩で法事やら石塔の建立やら殘る所なく菩提を弔つた。

其後、梶原は相變らず飄筋な奇行をして人の耳目を驚ろかしたりしてゐたが

をすもとに一點、邪氣がないさながら小兒の如くであり又禪僧の如くであつた

當選御禮

這般町會議員選擧に際し自らを揣らず立候補候處各位の深甚なる御同情に依り幸ひ當選の榮を荷ひ感佩措く能はざる次第に御座候就ては誠心誠意平町の發展に盡瘁し以て各位の御負託に相背かざる樣努力可申候間今後共一層の御指導御援助を賜はり度先は不取敢以紙上此段御厚禮申上候 敬具

關內正一

當選御禮

這般町會議員選擧に際し自らを揣らず立候補候處各位の深甚なる御同情に依り幸ひ當選の榮を荷ひ感佩措く能はざる次第に御座候就ては誠心誠意平町の發展に盡瘁し以て各位の御負託に相背かざる樣努力可申候間今後共一層の御指導御援助を賜はり度先は不取敢以紙上此段御厚禮申上候 敬具

齋藤敏實

當選御禮

這般町會議員選擧に際し自らを揣らず立候補候處各位の深甚なる御同情に依り幸ひ當選の榮を荷ひ感佩措く能はざる次第に御座候就ては誠心誠意平町の發展に盡瘁し以て各位の御負託に相背かざる樣努力可申候間今後共一層の御指導御援助を賜はり度先は不取敢以紙上此段御厚禮申上候 敬具

佐々木龍若

當選御禮

這般町會議員選擧に際し自らを揣らず立候補候處各位の深甚なる御同情に依り幸ひ當選の榮を荷ひ感佩措く能はざる次第に御座候就ては誠心誠意平町の發展に盡瘁し以て各位の御負託に相背かざる樣努力可申候間今後共一層の御指導御援助を賜はり度先は不取敢以紙上此段御厚禮申上候 敬具

井上茂作

當選御禮

非才淺學の野人首尾よく當選の榮冠を贏ち得候は全く各位の熱烈なる御同情によるものご感銘に不堪候向後至平公正の見地に立ち必ずや各位の御期待に背かさるを確信する次第に候不取敢紙上を以て御禮迄如此に御座候

石山治三郎

當選御禮

非才淺學の野人首尾よく當選の榮冠を贏ち得候は全く各位の熱烈なる御同情によるものご感銘に不堪候向後至平公正の見地に立ち必ずや各位の御期待に背かさるを確信する次第に候不取敢紙上を以て御禮迄如此に御座候

荒川恒次郎

當選御禮

非才淺學の野人首尾よく當選の榮冠を贏ち得候は全く各位の熱烈なる御同情によるものご感銘に不堪候向後至平公正の見地に立ち必ずや各位の御期待に背かさるを確信する次第に候不取敢紙上を以て御禮迄如此に御座候

大森勇

當選御禮

非才淺學の野人首尾よく當選の榮冠を贏ち得候は全く各位の熱烈なる御同情によるものご感銘に不堪候向後至平公正の見地に立ち必ずや各位の御期待に背かさるを確信する次第に候不取敢紙上を以て御禮迄如此に御座候

綠川喜三郎

當選御禮

非才淺學の野人首尾よく當選の榮冠を贏ち得候は全く各位の熱烈なる御同情によるものご感銘に不堪候向後至平公正の見地に立ち必ずや各位の御期待に背かさるを確信する次第に候不取敢紙上を以て御禮迄如此に御座候

坂本隆藏

當選御禮

這般町會議員選擧に際し自らを揣らず立候補候處各位の深甚なる御同情に依り幸ひ當選の榮を荷ひ感佩措く能はざる次第に御座候就ては誠心誠意平町の發展に盡瘁し以て各位の御負託に相背かざる樣努力可申候間今後共一層の御指導御援助を賜はり度先は不取敢以紙上此段御厚禮申上候 敬具

國府田直良

當選御禮

迂生儀今回短才の身を顧みず立候補致し候處幸ひ當選の榮を膽ひ候は偏ひに各位の御同情の賜ご奉深謝候此の上は一意專念至正公平任務に叛かさるべく御禮まで申上度く如斯に御座候

鈴木光吉

當選御禮

迂生儀淺學短才の身を顧みず立候補致し候處幸ひ當選の榮を擔ひ候は偏へに各位の御同情の賜ご奉感謝候此の上は一意專念至正公平任務に叛かざるべく御禮まで申上度く如斯に御座候

根本品藏

當選御禮

迂生儀淺學短才の身を顧みず立候補致し候處幸ひ當選の榮を擔ひ候は偏へに皆樣の御同情の賜ご奉感謝候此の上は一意專念至正公平任務に叛かさるべく御禮まで申上度く如斯に御座候

花澤兎五六

新綠盛裝して◇名畫續映
◇威風颯爽たり（卅一日替り）

◈文藝倶樂部所載 主演伏見直江
◈原作柳原綠風 脚色松本常男 監督渡邊邦男

人の世姿 [illegible] 全八卷

助演者 尾上華丈 尾上桃華 尾上卯多五郎 瀨川銀潮 小松みどり 嵐璃左エ門 磯川元春 寺島貢 其…他

㊣御後援 鐵道省 各省御讚賞
山本嘉一 島耕二 瀧花久子主演
鐵道美譚 特急三百哩 全九卷
中村政登志 三田實 津島ルイ子
歐米大作品を遙かに優越せる日活本年度代表名畫

主演阪東妻三郎 志賀晴朗 中村吉松 森靜子
原作…大須賀藩 監督…大塚稔

忠次傳外 赤城嵐 全十卷

◇哀愁をこむること深き……此の懊惱詩殼は古くも新味彷彿日頭新らしき誕生をなしつゝある阪妻の異技

特別興行 料金 普通 松竹 日活 平館 電四六六
說明 石井孝

廣告

ジボレー一九二七年式
中古 乘用自動車一臺
極く低簾に是非讓り渡したし希望の方は來談下されたく御相談に應じます
湯本町表町（山形屋旅館前）
赤津八太郎

入院隨意（自炊の便あり）
X光線 外科 專門
平 南町 上田外科醫院 電話一二九

普選の情景こまやかに
平町議選擧終る
正午までに約七割の投票
悲喜交々の各候補者

平町會普選第一回の選擧はさすがに舊慣を脫し各種各樣の候補とりませ三十六名が約一ケ月に亘つて血の出る樣な競爭を續け、愈々選擧のどたん場に至つて候補三十七名に達し泣いても

吼へても 免れない七名の落選者は果して何人が此の貧乏籤を抽き當てるであろうか、然かも此の意義ある町民審判の日は來た、三十日午前五時、開場一時間前既に選擧場たる舊平商業學校前には清き一票を持つ人々が時よ來たれと待ち構へてゐるのも流石に普選の情景である、午前六時赤白、紫の三所の受附に飛び付いたのは研町伴三治、鍛治町渡邊富義、田町吉田弘の三君が一番を承つて

投票した のを初めの八時より九時頃までが最も混雜を極め正午までに二千四百二票の投票があり荷車を選擧場前に停めて馳け込む人や印絆天の元氣な若者を初め俥に運ばれる病人等さすがに猛烈の競爭を窺はせるに足る光景を午後七時まで續け、各候補事務所は何れも當選の確信を物語り疾やくも當選祝の準備に着手する景氣な所もあれば投票箱を

見て來た 樣な嘘に尾を付けて流言誹語を飛ばすもの等運命を決すべき最後の時に刻々と追つて來る、午後七時三千五百八十七人の入場で投票を締切り一時間休憩の後八時より開票開始の筈（七時十分記）

棄權率は 僅か四分弱
意外の好成績

有權者數と棄權の比率を見ると名簿登載數は三千九百五十三名であつたが其の後死亡五十七名、他町村移出百四十六名、欠格四名、重複十三名にして投票日現在の有權者數は三千七百三十三名でより右に對する投票三千五百八十七票棄權僅か百四十六票にして約四分弱に當り普選初回の選擧としては比較的棄權が僅少に止まつた事は好成績であつたと云はれてゐる

息詰る緊張裡に 投票箱の蓋明く
當落茲に全く決し 歡泣の聲起る

開票は午後八時より開始されたが、伏見選擧長を初め星野、會川、槇木、山野邊の各立會人と各候補五名以內に限られた參觀人とが場內に詰めかけ猪狩平署長外十數名の警官物々しき警戒裡に息つまる樣な空氣の內に開票を進められたが場の內外に溢れる群集は各々得票を知らんと犇めき合ひ內部より飛ぶ通報が口々に傳へられて場の內外は恰も一大爭亂を演じ午後十二時頃までに大体は判明せるも其後無效投票の詮議調査に時間を要し午前一時二十分に至つて全く決し當落は左の如く決定した

◁◁◁◁◁ 變つた選擧人 ◁◁◁◁◁
盲人が十九人で 高令は八十六才

普選當初の選擧は流石にそれらしい情風を漂はしたが特に目を惹いた盲人の點字投票は白銀町國井粂吉さん外十八名で高令の方では八幡小路の長澤知貞爺の八十六才が最高で特に人目を惹いた（午前一時半記）

高橋氏の高點 本人も意外
町民の陰れた同情

高橋龜松氏が豫想外の最高點を以て當選を見た最大の原因は同氏は雪恥戰である處から最も緊張し應援者も始終熱誠に努め相當優勢を傳へられるや之れを羨望する民政黨の連中は極力氏の當選を妨害すべく極めて薄弱なる理由を以て選擧違反騷ぎをこね上げ同氏の當選を妨害せんとしたので高橋氏に對する選擧民の同情期せずして集まり遂ひに豫想外の高點を贏めるに至つたもので高橋氏自身も意外とし之れは同氏の爲め禍ひ福に轉じたものである

請負業者の 誠意疑はる
佐々木氏の落選

在平請負業者が一致結束して擁立した佐々木健一郎氏は當初極めて優勢を傳へられ流石に請負業者の德義と結束の程を激賞され十番以內ぐらいの所で當選を豫想されてゐたのに反し結果は意外にも落選の不幸を見るに至つたので町民は餘りの意外に驚ろくと同時に請負業者間の結束と誠意を疑はれてゐる

惜しまれる 加納氏
實に平町の損失

加納五郎氏は立ら遲れの關係もあり當初より苦戰を傳へられてゐたが流石に同氏は平町會第一人者として既に前期間に其の人材を認められ益々氏等の將來に期待する處多かつたが不幸落選を見たるは平町政の爲め惜しむべきであるが此の敗因は同氏の根據とする平魚市場關係が民政黨某々等の爲めに悉く或る手段によつて裏切られた事が最大の原因と見られてゐる

民政黨の陰謀成らず 目ざす讐は悉く當選
不公平極まる選擧立會人 伏見町長へ批難の聲

平町會改選に際し民政黨は如何にしても多數を占め町會の絕對權を掌握せんとし其の爲め目の上の瘤と睨む井上茂作、青沼鋒太郎、千葉彥治、大森勇、高橋龜松、佐々木龍若等々諸氏を蹴落さんものと專ら主力を此の方面に注ぎ陰謀怠りなく殊に露骨なるは町長伏見彥衞氏と通謀し選擧立會人を最も民政黨の爲め利益ならしめる不公平極まる選任をなし極力之れに備へたが流石に町民の政治的自覺は見事にも民政黨の陰謀を根本より崩壞し遂ひに政友派の理想とする候補者の悉くを當選せしめた慶すべき處であるが選擧立會人の選任に對する伏見町長の不公平なる態度に就ては可成り町民の批難を受けてをり新町會に於て必らず糾彈される事は免れぬ事の樣に見られてゐる

小名濱を荒した 放火男捕はる
大金を所持して木賃泊り 平署餘罪取調中

平町六丁目清水屋旅館に二十五日石城郡好間村大字中島叶多六一(三八)と稱し泊り込んだ土工風の男があつたが風体に似合す大金を所持するので平署猪狩刑事は二十八日午前一時頃外出の歸りを待伏せて有無を言はせず引致せんとするや矢庭に逃走したので追跡大格闘の末漸く逮捕し嚴重取調ると賢は平町北目町生れ放火前科一犯叶多敏彌(三九)と言ひ昨年より窃盜罪で起訴猶豫となり地方を轉々と漁り廻り去る二十三日午前十一時頃小名濱町字上町藤原村山ウラ方より家人の留守を目采て現金五十圓を窃取し同町新米屋旅館永山モリエ方より現金七十六圓入りの蟇口を窃取した外拾數件の窃盜を自白したが金錢は全部遊興に費し十圓札三枚五十錢銀貨六圓を所持してゐた

神谷村議選
三十日執行さる

石城郡神谷村會議員選擧は三十日執行された、當選者は左の如し

（當選者）五九村木幸雄　五六新妻利兵治　五三鈴木與衞門　五一仲野惣吉　五〇志賀伊之松　四七鈴木政之助　四六松本喜作　四五鈴木辰之丞　四五西丸伍重　四四西郡熊五郎（次點）三六木村健造

平町水害復舊

平町では二十八日午前十時から町役場に土木委員會を召集し去る二十三日夜來の大暴風雨に於ける平町土木關係の被害地四十四ケ所に對する復舊工事見積り約一千三百圓の件を協議した

投票の內譯
棄權一四六、無効二七
各候補の得點數

平町普選最初の町會議員選擧成績を見ると名簿登載數が三千九百五十三名で其の後死亡、失格を除き入場券を交附したもの三千七百三十三名のうち投票したもの三千五百八十七票、棄權百四十六票にして僅か四分弱の好成績を示したが投票總數三千五百八十七票中無効は僅か二十七票にして各候補の得點は別項の如く極めて好成績裡に終つた事は普選最初を飾るに足るものである

草野村議選

草野村々會議員選擧は二十九日執行の結果左の如く當選した

木村庄之助、富岡三津太郎、坂本佳市、佐藤忠三郎、樫村廣松、粥塚富一郎、芳賀元治、門馬寅之助、猪狩金之助、渡邊弘男、新妻芳次郎（次點）豐田酉太郎（以上）

磐越出張所

石城郡平町株式會社磐越銀行は昨年好間、白水、湯本、小川郷、新山、小名濱の各出張所を繼續設置方申請したが大藏省ではこれに對し好間、白水、湯本の三出張所のみ認可指令他は不認可と爲つたので同行ではせめて小名濱出張所だけ存續詮議されたいと二十八日中野頭取から縣經由大藏大臣に陳情した

小學卒業生ノ 希望調べ

平職業紹介所では過般來郡內小學卒業生の希望調査をなしたが上級學校に進む者は男二千百六十九人女一千九百六十三人で家庭に止まる者男九百二十八人女一千八十七人就職希望者は男四百九十八人女二百二十七人で男女合計六千八百六十四人でうち四千二百九十二人は小學卒業生で高等科卒業生は二千五百七十二であると

高久村二毛作

石城郡高久村二毛作品評會は來る六月三日開會する郡農會大山技師柴田技手審査のため出張する

次回小說豫告
近日より本紙上に

本紙目下掲載中の講談「狂怒亂心」は讀者の大喝采裡に愈々近日中に大團圓を告げる事となりましたに就て本社は次回掲載物につき極力撰擇の結果

三上於兎吉先生作
死を超ゆる運命
（布施平八郎畫）

而して本小說の構想は現代道德的制裁の薄弱なる社會組織を憤慨しその裏面にひそむで男性の犧牲たらんとする悲慘なる女性の運命を如實に描破して弱者の悲痛なる絕叫を紙上に移し女性のために人々の自覺を促さんとするものであります。作風も單なる通俗小說でなく飽くまでも藝術的良心の許に一般の人々に分り易いと言ふことを特に本意とせられてゐるので大體の梗概は男性の意氣から薄倖なる妙齡の美女を救はんとして誤つて自ら養父殺しの嫌疑を受けた大學生が悲慘なる運命に弄ばされて牢獄に呻吟したがやがて奮然として運命の開拓に努力し凡ゆる誘惑に迷はず、權力に屈せず、煩悶と闘つて人道的精神に精進す、締で、作中には貧しけれども美はしき一處女が强慾亂倫なる富豪のため純潔なる貞操を蹂躪され誇りを奪はれんとして惱む悲慘なる生活を描き、果して薄命悲しむべきか、幸運喜ぶ可きか……興味盡きざる三上式の鮮かなる筆致隨所に燦然たる珠玉の氣禀を表はして居る一大力作であります。

平町會議員當選者
（得票順）

一八四票	高橋龜松
一五九	吉村安次郎
一四四	井上茂作
一四三	萩原義雄
一四〇	關內正一
一三二	野崎滿藏
一三〇	吉田寅之輔
一二九	千葉彥治
一二〇	根本品藏
一一三	石山治三郎
一〇九	猪狩庄平
一一〇	馬目武之助
一〇八	武田元之助
一〇八	國府田直良
一〇六	柳下元吉
九八	佐々木龍若
九三	鈴木光吉
九二	青沼鋒太郎
九一	大森勇
八八	荒川淺次郎
八八	馬目雅治
八六	佐藤岩次郎
八六	荒川恒次郎
八六	齊藤敏實
八四	吉田五平
八二	花澤兎五六
七九	櫻井清
七六	永山富廣
七三	坂本隆藏
七三	綠川喜三郎
次點七〇	遠藤林松
六九	瀧澤俊平
六一	松永友太郎
六〇	加納五郎
五八	佐々木健一郎
三三	宇佐美友二郎
六	小野伊佐治

當選御禮

這般町會議員選擧に際し自らを揣らず立候補候處各位の深甚なる御同情に依り幸ひ當選の榮を荷ひ感佩措く能はざる次第に御座候就ては誠心誠意平町の發展に盡瘁し以て各位の御負托に相背かざる樣努力可申候間今後共一層の御指導御援助を賜はり度先は不取敢以紙上此段御厚禮申上候　敬具

千葉彥治

當選御禮

這般町會議員選擧に際し自らを揣らず立候補候處各位の深甚なる御同情に依り幸ひ當選の榮を荷ひ感佩措く能はざる次第に御座候就ては誠心誠意平町の發展に盡瘁し以て各位の御負托に相背かざる樣努力可申候間今後共一層の御指導御援助を賜はり度先は不取敢以紙上此段御厚禮申上候　敬具

青沼鋒太郎

當選御禮

這般町會議員選擧に際し自らを揣らず立候補候處各位の深甚なる御同情に依り幸ひ當選の榮を荷ひ感佩措く能はざる次第に御座候就ては誠心誠意平町の發展に盡瘁し以て各位の御負托に相背かざる樣努力可申候間今後共一層の御指導御援助を賜はり度先は不取敢以紙上此段御厚禮申上候　敬具

猪狩庄平

當選御禮

這般町會議員選擧に際し自らを揣らず立候補候處各位の深甚なる御同情に依り幸ひ當選の榮を荷ひ感佩措く能はざる次第に御座候就ては誠心誠意平町の發展に盡瘁し以て各位の御負托に相背かざる樣努力可申候間今後共一層の御指導御援助を賜はり度先は不取敢以紙上此段御厚禮申上候　敬具

馬目武之助

當選御禮

這般町會議員選擧に際し自らを揣らず立候補候處各位の深甚なる御同情に依り幸ひ當選の榮を荷ひ感佩措く能はざる次第に御座候就ては誠心誠意平町の發展に盡瘁し以て各位の御負托に相背かざる樣努力可申候間今後共一層の御指導御援助を賜はり度先は不取敢以紙上此段御厚禮申上候　敬具

高橋龜松